

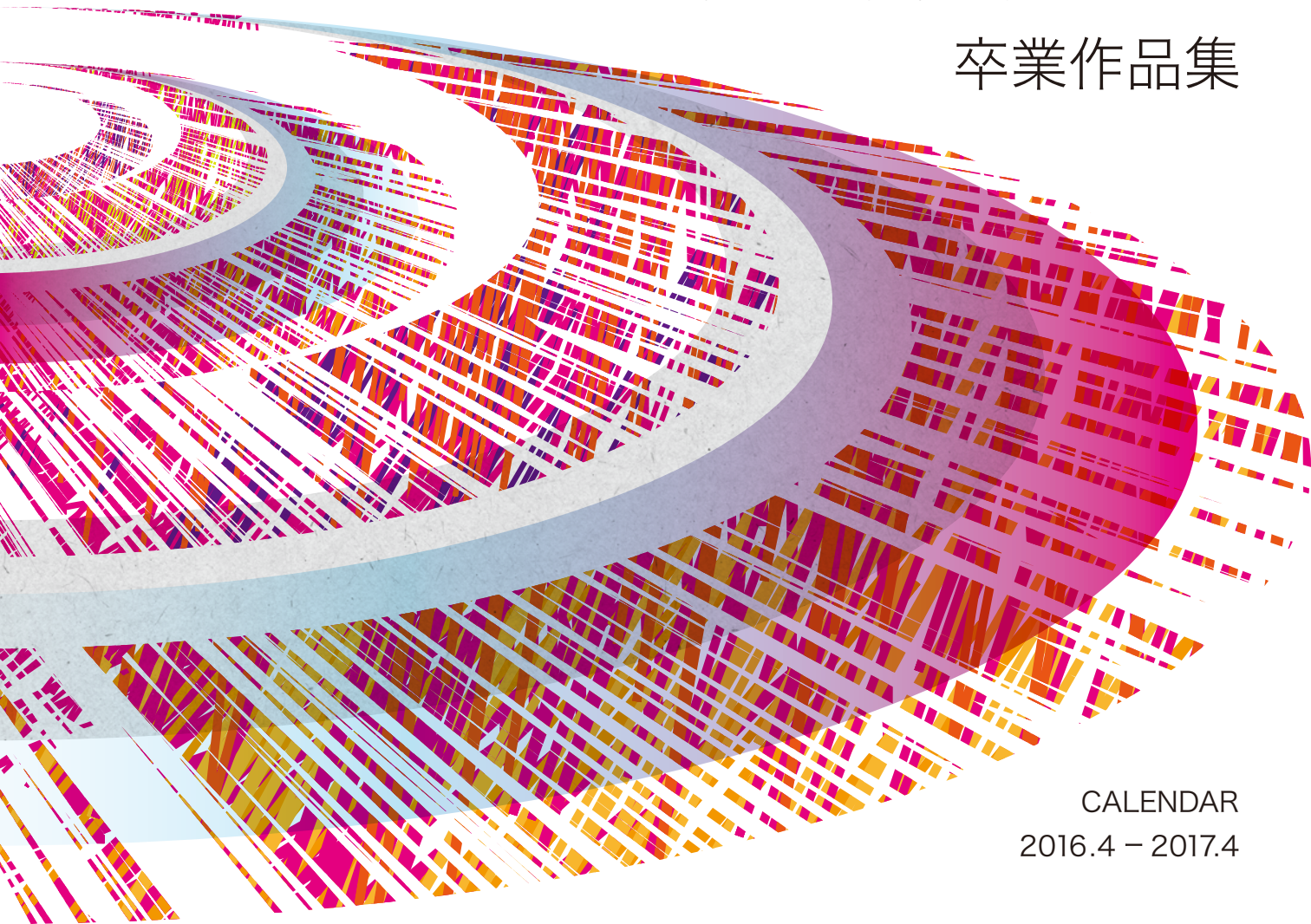
# DESIGN GRADUATION WORKS 2016

---

---

会津大学短期大学部 産業情報学科 デザイン情報コース

卒業作品集



CALENDAR  
2016.4 - 2017.4

## ごあいさつ

この「作品集」は、「デザイン情報コース卒業研究発表会」、「卒業研究発表会 研究要旨集」、「卒業展」と、広く一般の方々に公表し、ご批判を仰いでまいりました。会津大学短期大学部産業情報学科デザイン情報コース卒業研究ゼミナールの成果を示す、今年度最後のものです。「作品集」の発行も今年で12回目を迎えました。お身近にお使いいただけるように編集いたしましたカレンダーも8回目です。

産業情報学科では、卒業研究ゼミを必修科目として位置づけ、デザイン情報コースでは1年次の後半からブレゼミとして実施し、2年次より具体的なテーマを設定し、問題解決能力や創造性の研鑽にとりくんでまいりました。その内容はWebデザイン、グラフィックデザイン、漆工芸作品、地域振興、復興支援、製品デザインと様々ですが、いずれも地道な研究を裏付けとした力作です。

今年も具体的な地域の問題をベース

としたテーマが多く見られました。地域の活性化ということでは「奥会津：只見線沿線エリアの活性化デザイン」、「会津野鍛冶の調査研究とプロモーションのためのデザイン提案—会津若松市 堤製作所「鉦」の研究—」、「会津における祈りに関するWEBサイトの提案」などが地域の方々の協力をいただきながら進められ結実しております。復興支援ということでは、「年貢町復興住宅におけるコミュニティカフェの提案」、「被災地における子供のための活動拠点の研究—震災後につくられた児童施設の研究と関上地区のデザイン提案—」があります。「新しい漆食器の提案—これからの2人のために—」、「小水力発電を身近に」も、温故知新をはかった具体的な提案です。その他の作品も各分野で学んできたことの集大成として見応えのあるものです。学生諸君にとっては、学生時代の創作への熱意と、活力に満ちた日々の証として、知性と感性を方向け、創造へ

の情熱を持って過ごした時期です。その中で創造された作品は、よき思い出になるものと期待しております。卒業する学生諸君には、この卒業研究ゼミで経験したプロセスと反省を通じて、創造することの喜び、諸問題に挑戦するエネルギー、充実したときを過ごして得た達成感などを糧に、今後の社会生活の中でさらなる飛躍につなげていってほしいと願っています。

最後に、卒業研究および卒業制作にご支援、ご協力をいただきました学内外の関係者のみなさまに深く感謝し、厚く御礼を申し上げます。

この作品集は広く学外にも配布して広くご高覧に供します。忌憚のないご意見、ご批判を賜れば幸甚に存じます。

2016年3月

会津大学短期大学部 産業情報学科  
学科長 石光 真

# デザイン情報コースの分野紹介

## インターフェイス INTERFACE

横尾ゼミ

Webデザインを中心に講義・実習を進めていきます。Webサイトで見られる画像や音声、そして動画などを扱うデジタルコンテンツ制作のための基本的な技術を学び、デザインに応用していくことを目指します。また、Webサイトで必要とされるユーザビリティ(使い勝手)、さらにはアクセシビリティ(例:高齢者にも対応した使いやすさなど)を考慮に入れたWebサイト制作など使う人の視点に立ったデザイン方法を学びます。

## インテリア INTERIOR

柴崎ゼミ

戸建住宅や集合住宅の室内空間、喫茶店などの商業空間、公共建築物の室内空間など、建築物を対象とした空間デザインの考え方・手法を学ぶとともに、人間にとっての居住空間のあり方や居住環境をいかに整えるかを考えます。ゼミでは、家具デザインからインテリア・建築デザイン、都市・地域デザインなどを範疇として、問題点の発見から解決までを自ら考えます。これらを通して、居住環境を創造できる人材を目指しています。

## グラフィック GRAPHIC

高橋ゼミ・北本ゼミ

広告・出版・印刷に関連する業界で将来活躍できる人材を目標にしています。実習やゼミの授業では、ポスター、カレンダー、ポストカード、パッケージ、新聞広告などといったグラフィック作品や、絵本やタウン誌の編集制作などを実際につくりながら学んでいます。グラフィックデザインに関する専門知識を学ぶだけでなく、常に見る人の気持ちになって考え、そして創造するビジュアルデザインの基本を大切にしています。

## クラフト CRAFT

井波ゼミ

全国でも10校余りしかない大学機関での漆芸専門教育の中で、古来日本の文化を培ってきた漆という自然素材を通してモノづくりについて研究します。漆工芸の基本技法について学びながら、ろくろや板物などの木工や、椀、蒔絵、乾漆、造形物などの作品制作を行います。手仕事の重要性や自らの手で創り出す意義について深く考察し、柔軟な発想力を育てデザイナーとしても新たな可能性を追求できる人材育成を目標とします。

## プロダクト PRODUCT

時野谷ゼミ

テレビ、電気炊飯器、掃除機、冷蔵庫、電話機、洗濯機、ステレオ、CDプレーヤー、パソコン、プリンター、コピー機、椅子、テーブル、自転車、自動車など生活に密着した工業製品のデザインについて学び、関連分野で活躍できる人材の育成を目指します。そのためにデザインに関する基本技術の習得と社会広く見つけ、どこに改善すべき点があるかといった問題意識をもち、その解決策を模索することのできる能力の修得を目指します。

# 目次

掲載月

研究テーマ  
氏名

---

2016

4

APRIL

会津における祈りに関するWEBサイトの提案

近内 まい 清水 廉久 中野 馨子 山崎 瑞季

色と音を使った発達障害の子ども向けのタブレット教材の提案

齋藤 絢

5

MAY

写真撮影初心者のための作品相互評価ツール

鈴木 将平

会津野鍛冶の調査研究とプロモーションのためのデザイン提案 — 会津若松市 堤製作所「姫鍬」の研究 —

遠藤 由紀

6

JUNE

年貢町復興住宅におけるコミュニティカフェの提案

小山 真由

聴覚障がいからみたUDの調査・研究 — 会津若松駅前広場における新たなバスターミナル・待合所のUD提案 —

高橋 千紘

7

JULY

只見町番匠に継承される巻物と伝統住宅の研究 — 只見町伝統住宅の研究と活用デザイン提案 —

船木 美沙

被災地における子供のための活動拠点の研究 — 震災後につくられた児童施設の研究と閑上地区のデザイン提案 —

三浦 望

8

AUGUST

奥会津・只見線沿線エリアの活性化デザイン

笠井 ルリ子 坂田 れい実 澁谷 朱里 瀬切 未知佳 東山 夏実 松田 涼花

クッキーのパッケージデザイン — 女性をターゲットにしたデザインと販売方法の提案 —

和泉 琴子

9

SEPTEMBER

戦前の文学作品紹介ポスター — 東北ゆかりの文豪たちを取り上げる —

及川 香純

観光地における個包装デザイン — 女性向けの饅頭パッケージの提案 —

大堀 舞美

10

OCTOBER

「会津のべこの乳アイスクリーム」商品ポスターの提案 —写真とコピーによる表現構成—

田代 汐莉

包装紙のデザイン提案 —東北地方の特徴を視覚的に表現したデザイン—

中田 満里奈

11

NOVEMBER

家紋の意味・由来を伝承するための図録 —蛇腹折を活用したエディトリアルデザイン—

福西 友実

漆でお米をおいしく

植竹 春日

12

DECEMBER

漆糸の研究と製品制作 —編み目の活用—

菅野 麻結

休日の大人のための漆鞆

酒井 和希

2017

1

JANUARY

受け継がれていく漆 —想いを漆にのせて—

坂本 杏理

新しい漆食器の提案 —これからの2人のために—

佐藤 沙妃

2

FEBRUARY

冠婚葬祭と漆

芳賀 祥子

子供のための箸トレーニング おもちゃの提案

今井 千聖

3

MARCH

持ち歩ける防煙マスク —身を守るためのツールとしての選択—

尾形 彩

小水力発電を身近に

金田 祥平

4

APRIL

高齢者と孫世代をつなぐ製品 —コミュニケーションツールとなるおもちゃの開発—

佐藤 ちひろ

家庭における食品ロスを減らすための製品の提案 —電気を使わない野菜ストッカー—

渡部 春希



寺院の取材風景



総合ページ



テーマごとのトップページ

## 会津における祈りに関するWEBサイトの提案

全国に出回る仏具などの宗教用具の60%は会津地方で生産されているが、あまり知られていないのが現状である。例えば年間およそ10万人亡くなる内の6割の方が持っている位牌は、そのうちの半分が会津宗教用具協同組合に参画している会津の企業で生産されたものである。それらを背景として、普段の生活と関わりが少ない位牌や仏壇等の宗教用具の敷居を下げ全国の方々にPRしていき、ひいては会津の知名度上昇へ繋げ、地場産業の活性化につなげ

るために、私たちは会津宗教用具組合と協力して共同でプロジェクトを立ち上げることとした。本プロジェクトは、協力して広告媒体を作ることによって、会津は宗教用具の生産地であることを知ってもらうWEBサイトを制作することである。会津の「祈り」をテーマにWEBサイトを展開することとし、それぞれ立ち上げた企画をコンテンツ化する。そしてそれらをWEBサイトで公開することによって、人々に会津を手軽に広く知ってもらうことが目的である。

WEBサイト

近内 まい  
清水 廉久  
中野 馨子  
山崎 瑞季

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14



実証実験



実証実験



実証実験



開発画面のスクリーンショット

## 色と音を使った発達障害の子ども向けのタブレット教材の提案

タブレット教材

発達障害の子ども達を身近で見て育ち、全国でも数十人しかいない音楽療法士だけではその子ども達のリハビリを行うことは不可能だと感じた。音楽療法士のリハビリを受けたくても受けることができない子ども達のために、今日普及しているタブレット端末を使用した教材の提案をすることにした。自閉症・染色体異常・ダウン症の子ども達に参加してもらい事前調査を行い、その結果からレベルに合わせた教材を作成した。本研究では、音楽療法で

用いられる媒体と同じ、「視覚(色)」と「聴覚(音)」を媒体とし、その際にApple社の新プログラミング言語「swift」を使用した。作成終了後、事前調査に参加してもらった発達障害の子ども達に実際に作成した教材をiPadやiPhoneというiOS向けの環境で実証実験を行った。その場でユーザーの親に評価をしてもらい、改良を加えた教材で再び学んでもらった。事前調査と実証実験から得た結果から、発達障害の子ども達に有効なものであったと感じる。

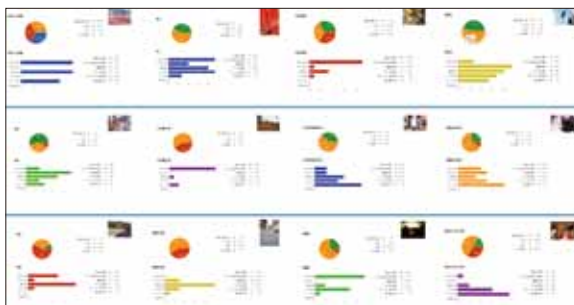
齋藤 絢



使用風景



完成品



投票結果

## 写真撮影初心者のための作品相互評価ツール

写真を始めたばかりの初心者にとっては、自分の写真を誰かに評価してもらうことは非常に重要である。だが、現実に自分の写真を評価してもらう機会を設けることは難しい。このツールはその機会をコンピュータ上で設けるために作成した。コンピュータを用いることで、手軽に写真を評価してもらう（また誰かの写真を評価する）ことが可能となる。ユーザーは、ブログ感覚で簡単に写真を投稿することができ、評価もワンクリックで簡単につ

けることができる仕様になっているため、コンピュータの操作に不慣れな人も扱いやすいものとなっている。このツールを使用した写真初心者が、今以上に写真を好きになり、撮影を楽しむようになってくれることをコンセプトとしている。「これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。」それこそが上達への最善の道だと考えている。

評価ツール

鈴木 将平

1

2

3 憲法記念日

4 みどりの日

5 こどもの日

6

7

8

9

10

11

12

13

14





展示ブース



堤製作所との打ち合わせ



展示販売の様子



展示ブース

## 会津野鍛冶の調査研究とプロモーションのためのデザイン提案

—会津若松市 堤製作所「姫鋏」の研究—

論文・パンフレット・ポスター

福島県会津若松市馬場町にある堤製作所で製作している姫鋏は、ブランド鋏として広く知られているが、農業の機械化による鋏の使用減少や、震災の影響で需要が減っており、鋏の売り上げも年々減少傾向にある。堤製作所は現在、女性の社長と職人数で経営をしているが、鋏の販売は直接販売がほとんどで、パンフレットやホームページなどはなく堤製作所を知るための機会や媒体が少ない。本研究では堤製作所の姫鋏を「見て」、「知って」

もらうための提案を行った。姫鋏の展示販売は、道の駅「あいづ 湯川・会津坂下」にて12月の11・12・13日に行った。展示ブースのデザインは、高さ180cm幅各20cm～50cmのものを各2枚ずつL字に留め、それらを7つ作成し屏風状に配置した。展示販売は予想に反し多くの来場者があり、堤製作所を見知ってもらうことができた。何より展示販売等は次につなげられる結果となり、これからの可能性を感じてもらうことができた。

遠藤 由紀



3回目のカフェで撮った写真



パネル展示の際のアンケート調査



フォトフレームに彫刻を施している参加者



本設カフェでの昼食風景

## 年貢町復興住宅におけるコミュニティカフェの提案

東日本大震災で被災した多くの方は、未だに仮設住宅、復興住宅で生活を送っている。復興住宅には、様々な地域から世代等異なった方々が集っている。東日本大震災によってつくられた復興住宅には数は少ないが交流のための、ちょっとした憩いの場である集会所やカフェ等が設置されているところがある。今回、カフェを提案する年貢町復興住宅は、入居以来ほとんど交流の機会がなかったところであった。年貢町復興住宅にヒアリング調

査、カフェの提案を行った際、集会所はあるものの具体的な団地内でのコミュニティ形成はなされていないようであった。3つの市町村の方々が共同で住んでいること、また、高齢者の単身世帯が多いということもあり、外に出る機会が少ないというヒアリング結果だった。そのような現状を少しでも緩和し、コミュニティ形成のきっかけづくりができればと思い、カフェで使う家具テーブル、ワークショップでフォトフレームの制作を行った。

論文・家具・ポスター

小山 真由

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14



船木家リノベーション提案



船木家三角の天秤構造



只見町黒谷船木家軸組み模型



番匠巻物

## 只見町番匠に継承される巻物と伝統住宅の研究

— 只見伝統住宅の研究と活用デザイン提案 —

只見町では古より大工のことを番匠（ばんじょう）と呼んでいる。只見町の職人は棟梁から一人前の証として、代々巻物を受け継いでいる。番匠巻物には由来、道具、儀礼の作法等が記されているのみで、工法等については触れられていないことが文献調査で分かった。また、現地調査では只見特有の「まがりや」（厩中門造り）が120程度残っていることが分かった。只見町では、現在は番匠の後継者不足が問題となっている。本研究では、代々伝

わってきた「まがりや」の工法等を、実測調査と軸組み模型を作成することで理解を深め、屋根や軒の積雪に耐える独自の工夫等を解明する。さらにこの工法等についての調査結果をもとに、只見町における民家の活用デザイン提案を行い、伝統工法の継承と住みよい環境づくりを目的とする。成果は、実測調査を行った只見町黒谷船木家住宅の軸組み模型とそのリノベーション提案である。

論文・模型

船木 美沙

1

2

3

4

5

6

7

8

9

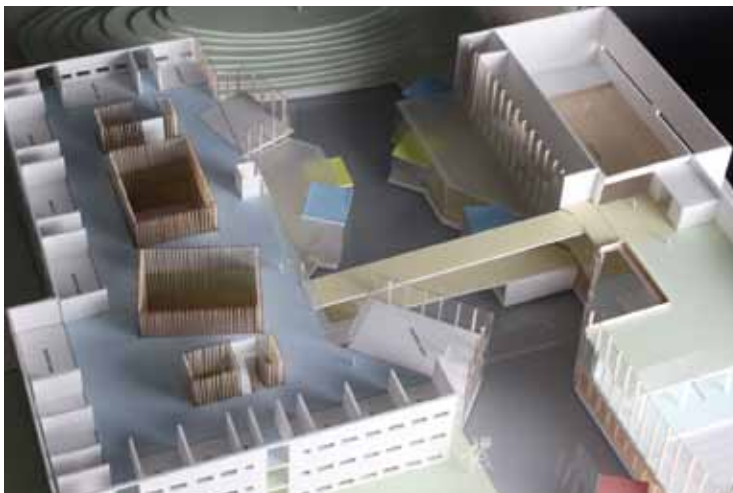
10

11

12

13

14



閑上小中学校デザイン提案模型



閑上地区復興敷地模型



閑上小中学校デザイン提案模型



閑上小中学校デザイン提案模型

## 被災地における子供のための活動拠点の研究

—震災後につくられた児童施設の研究と閑上地区のデザイン提案—

東日本大震災において津波被害を受けた地元宮城県名取市閑上地区は、小中一貫校の再生は計画されているものの、子供たちの支援といった計画は進められておらず、子供たちが閑上地区でこころのサポートを受けることはあまり期待できない。よって本研究は、震災後つくられた子供センター等を調査し、子供たちが安心して暮らすことのできる閑上小中学校・子供センターの施設提案と周辺の街づくりを提案した。表現媒体は計画敷地模型

と閑上小中学校デザイン模型である。提案では、避難路の整備とコミュニティ形成を考え、まちと学校が“つながる”デザインを考えた。普段、避難路は閑上地区の人たちが図書館やプールを利用する際に自由街路として集まることができるようし、避難路は、丘の上に逃げられるように道を正確に表すように心がけた。また、学校と施設はある一定のところで空間を分け、生徒の学習環境や防犯面からも安心できるようにデザインした。

論文・模型

三浦 望



パンフレット「おくとび」、リーフレット「おくとび」、ペーパークラフト、トートバッグ



都営地下鉄電車中吊り広告(秋)



都営地下鉄電車中吊り広告(冬)



ゼミ生集合写真

## 奥会津・只見線沿線エリアの活性化デザイン

奥会津地域には少子高齢化や過疎化など根本的な問題があったが、追い討ちをかけるようにJR只見線は2011年7月に起きた新潟・福島豪雨により、一部の橋梁と路盤が流出するなど被害を受け、現在も会津川口ー只見間が不通となっている。過疎地であることに加え知名度も低いため利用者は少なく、復旧の目処も立っていない。そこで今回私たちは、東京大学・拓殖大学・大月短大の学生達との意見交換を踏まえつつ、奥会津地域のPRを通して只見線沿線

エリアの活性化・只見線の乗客数増加を目指すことにした。奥会津五町村活性化協議会と連携し、「会津短大生による奥会津PRパンフレット・グッズのデザイン提案」をおこなって、実際に都営地下鉄電車での広告展開や各種PRツールを完成させた。また、他大学との合宿を通じて、「奥会津でのオプションツアープラン」という新たなPRを試みることになり、株式会社シンクの方々と連携し、ツアープランを一から提案、リーフレットの制作を行うに至った。

大型ポスター・パンフレット 他

笠井 ルリ子  
坂田 れい実  
澁谷 朱里  
瀬切 未知佳  
東山 夏実  
松田 涼花

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

山の日

12

13

14



120種のパッケージ



カボチャ味のパッケージ



複数購入用のパッケージ



イチゴ味のパッケージ

## クッキーのパッケージデザイン

—女性をターゲットにしたデザインと販売方法の提案—

現在、各所のお菓子売り場では、一つの商品に対して展開されるパッケージデザインの数が少ないという共通の問題がある。またお菓子の詰め合わせを購入する場合、複数の味を自由に組み合わせることができない。この状態では消費者の選択肢が限定されてしまうため、それを改善するためのパッケージデザインと販売方法が必要であると考えた。そこで、複数の味を選択できるクッキーを多様なパッケージデザインで展開し、販売方法

を工夫する新しいモデルを提案した。この提案の目的は、消費者に選ぶ楽しみを与えるとともに、個人の好みに合った商品を選びやすくして買い物を娯楽として捉える女性の購買意欲をさらに高めることである。今回のパッケージデザインは、それぞれまったく異なるデザインにすることを心がけて制作したが、アンケート調査の結果に基づいて落ち着いた色を使ったデザインの割合が最も多くなっている。

パッケージ

和泉 琴子



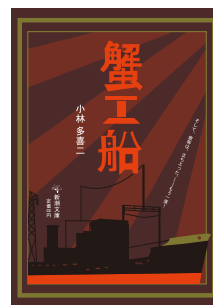
女生徒



よだかの星



機械



蟹工船

## 戦前の文学作品紹介ポスター

— 東北ゆかりの文豪たちを取り上げる —

近年、インターネットが普及し、文学作品がどこでも読めるツールが多く存在するようになった。しかし、そのような環境にあっても、若者の活字離れが叫ばれていて、特に文学は著しい。その原因の一つに、文学作品に触れる機会が無いことがあげられると考えられる。そこで、本研究では、文学作品に興味を持つ機会を提供したいと考えた。紹介作品の作者を東北出身者に絞り、東北の若者にも伝わるようなポスターを制作した。発行当時の印作物の

傾向(当時の流行色)を元に、文学作品の一文をポスター内に構成し、表現していくことができた。しかし、戦前の文学作品を取り上げたことにより、発行当時の印刷物の傾向を使い、過去の作品を現代の人に伝わるように制作することの難しさ、情報伝達の難しさを改めて実感した。また、作品の良さをポスター内に表現し伝えられるかという部分に悩み、伝えたいことを明確にビジュアル化ができなかったことが反省点である。

ポスター

及川 香純

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14



30種のパッケージ



店頭に並んだ際のイメージ



皆生温泉のパッケージ

## 観光地における個包装デザイン

### — 女性向けの饅頭パッケージの提案 —

全国の温泉街には必ず土産品が売られている。その中でも、温泉街の土産品として多く見られる饅頭のパッケージは、外側の箱に紙ラベルを巻いただけのものや透明のビニールのもといった簡素な包装が多い。また、土産物の饅頭は少数で売られているものはあまり見ない。少数の人に贈る時や自分用に少しだけ食べたいと感じている方に10個以上は多く、日数が経ち腐らせてしまうケースが多々ある。そこで本研究では、制作する温泉街

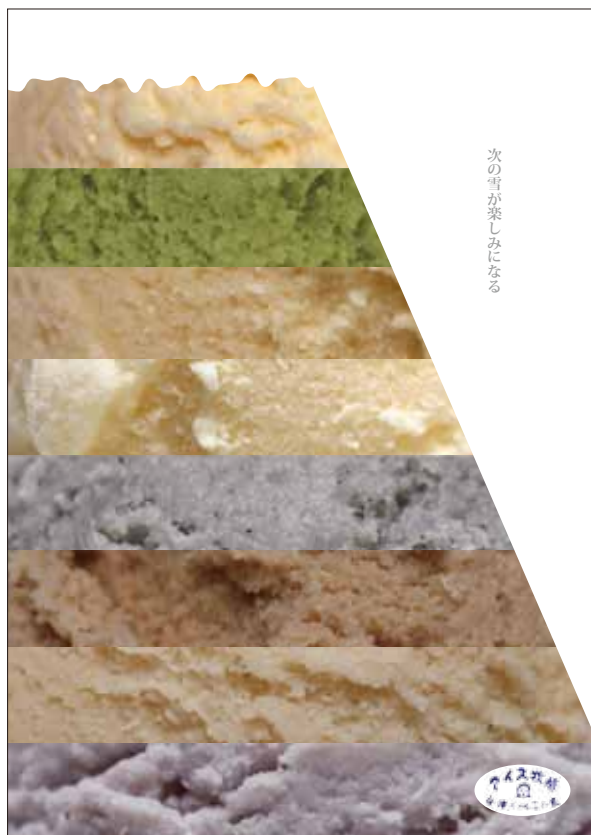
を10箇所に絞り、各温泉街3種類ずつの計30個の個包装デザインを提案した。温泉街を観光した際の土産品として購入するのを目的としているため、各温泉街の特産品や自然をモチーフにした柄を制作した。また、男性よりも女性の方が土産品の購買意欲が高いため幅広い年代の女性をターゲットとした。女性に好まれる色合いや柄を調査し、購入する楽しさと土産物として貰う嬉しさの両方を感じられるデザイン制作を心掛けた。

### パッケージ

大堀 舞美

- 15
- 16
- 17
- 18
- 19 敬老の日
- 20
- 21
- 22 秋分の日
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30





全ての味 (冬季)



抹茶味 (夏季)



ヨーグルト味 (夏季)



柿味 (冬季)

## 「会津のべこの乳アイスクリーム」商品ポスターの提案

—写真とコピーによる表現構成—

会津中央乳業が製造販売する「会津のべこの乳アイスクリーム」の商品ポスターの提案をテーマに、1年を通して制作研究を進めてきた。商品の宣伝媒体はホームページ以外に存在せず、会津地域での宣伝効果を高めることや、牛乳に対する強いこだわりや高い品質を持つ魅力的な商品として地産地消を促すことも目的とした。会社への取材から「会津らしさ」のあるポスターを求めていることを知り、それを踏まえてアイスクリームの写真とコピー

を使用してポスターの紙面構成をした。季節に合わせて夏季と冬季の2パターンを、それぞれ8種類の味と、全ての味をまとめたもの合わせて、全18種のポスターを制作した。会津の豊かな自然や素朴な雰囲気、アイスクリームと関連させながら、世代や性別を問わず好まれるようなデザインをした。制作をしてみて、自分の表現が伝わらないこともあり、視覚を通じた情報伝達の難しさを改めて感じた。

ポスター

田代 汐莉

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10 体育の日

11

12

13

14



岩手 県北



宮城 県北



福島 浜通り



包装した状態

## 包装紙のデザイン提案

— 東北地方の特徴を視覚的に表現したデザイン —

包装紙は、物を包み保護するだけでなく装飾性も兼ね備えており、おもにデパートや百貨店、観光地の店舗など、全国各地の店舗で使用されている。包装紙の色や柄は豊富であるが、それらは費用（印刷費・デザイン費）をかけている。地方の観光地は経済的な理由からその余裕がないため、都市部の有名デパート等とのデザインの質に差が生じる。また、種類が少なく中高年に向けたデザインに偏っているため、若者にも興味を持ってもらえる

デザインにしたいと考えた。今回は、自分自身に縁のある東北地方に限定することにした。明快な白の線や模様といったはっきりとした表現と、にじみやぼかしでぬくもり・素朴さを感じさせる東北らしい表現を融合させ、男女問わず幅広い年代の人に受け入れてもらえるデザインにした。また、印刷にかかるコストを抑えた単色印刷でも成立するよう考慮した。

包装紙

中田 満里奈



蛇腹を広げた状態



閉じた状態と開いた状態



ページをめくる

## 家紋の意・由来を伝承するための図録

— 蛇腹折を活用したエディトリアルデザイン —

図録

日本人の美意識が結集された日本の伝統文様。そんな日本の伝統文様の洗練されたデザインに着目し、その魅力を多くの人に伝えたいという思いから制作を始めた。家紋をはじめとした日本の伝統文様は今日でも日用品やアクセサリ、ファッションなどさまざまなモノへの使用が確認できる。しかし、日本の伝統文様の表面的な美しさばかりが目され、日本の伝統文様の持つ奥深い魅力(意味・由来等)が世間一般に広く認知されていないの

が現状である。そこで、日本の伝統文様の中でもデザイン性に優れ、誰もが身近に存在を感じることできる“家紋”を題材に取り上げ、家紋の意味・由来に触れる端緒となるような図録を制作した。この図録を手にとった人々に、日本の伝統文様の奥深い魅力を感じてもらえれば幸いだ。

福西 友実

1

2

3

文化の日

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14



お椀とプレートのセット



お椀



プレート

## 漆でお米をおいしく

漆とお米は共に需要の減少傾向にある。また、以前はお米を食べる器も漆器で作られたものが多かったが、最近では陶器を使う家庭が多いように思う。そこで、米と漆を組み合わせるために現代の食生活への提案が出来ないか、漆器がお米を食べる道具としてもう一度蘇ることはできないかと考えた。“漆でお米をおいしく”というテーマで研究していたが、味だけではなく“健康面でもおいしく”ということを考え調査したところ、ワンプレート

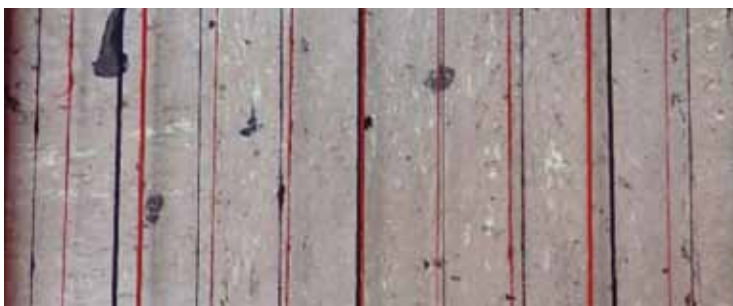
にたどり着いた。健康的な食事の基本は1汁3菜である。普通のワンプレートでは、この1汁はバランスを保って置くことが難しい。漆のワンプレートでは、お椀がプレートに綺麗にはまることを課題にした。それに伴い、お椀のデザインもプレートにはまりやすく取り出しやすい形になった。

漆芸作品(轆轤・木工)

植竹 春日



鞆漆生地拡大



試作(糸)



試作

## 漆糸の研究と製品制作

### — 編み目の活用 —

奥会津三島町では糸玉という縄文時代の漆工品が発掘され、伝統的工芸品である編み組細工がつくられている。今回の研究では、糸と漆の研究および新しい編み組細工の提案として同じ地域から出土した糸玉と関連付けたカバンの制作を試みた。はじめに、使用する糸の種類・太さ・縫りの本数および使用する漆の色・希釈の配合比率・塗りを行う回数について、制作に最も適した組み合わせを研究した。結果として、一本縫り紙糸・十六本縫り木綿糸の二種類、

漆：石油＝3：7に希釈した黒漆を3回塗って拭き取ることに決定した。次に、編み組細工と製品についての調査とアンケートを行った。内容は糸の編み方・カバンのデザインを決めるためのもので、得られた結果をもとに本格的な制作を開始した。デザイン案の決定は特に難しく、製作過程で多少の変更や修正も行った。最終的に、落ち着いたデザインをコンセプトにすえ、制作した漆生地の色味に合わせた革や布などのパーツでカバンを構成した。

漆芸作品(編み組)

菅野 麻結

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14



大小2種類



フタを開けた様子



模様部分の拡大

## 休日のための大人のための漆靴

現代の新たな漆製品の需要について考えた場合、一つのターゲットとして戦後ベビーブームに生まれ、社会形成のため尽力し、会社勤めを終え、それぞれが第二の人生を謳歌している世代への提案が挙げられる。彼らは趣味でよく旅行をするという統計結果があり、中でも国内旅行の人气が特に高い結果がみられた。旅行先での宿泊時にホテルや旅館に荷物を置き、散策やお土産を買い、外食をする人も多い。財布や携帯電話は常に持ち歩く

必須アイテムであるが、最低限の持ち物があれば良いのではないかという点から、財布と携帯電話の大きさに合わせた小さな革の鞆を制作しようと考えた。また、この世代の特徴でもある持ち物へのこだわりと、同様の旅をする同世代へのアピールも考えたとき、存在感を発揮する革と漆の鞆に新たな漆製品の可能性があるのではないかと考え、その発想を基に研究制作を試みた。

漆芸作品(漆皮)

酒井 和希

15

16

17

18

19

20

21

22

23 天皇誕生日

24

25

26

27

28

29

30

31



透かし彫りをした脚



上面の紋様

## 受け継がれていく漆

— 想いを漆にのせて —

思想や世の中の動き、様々なものが時代の移り変わりとともに変わっていく。そんな中でも変わらないものの一つに「母から子への愛」があると考えた。自分の原点である故郷、青森に居住していたアイヌ民族は、母から子へ刺繍の技術を受け継いで大人になっていったという。この刺繍は魔よけとして衣服などに施されたもので、刺繍の文様には一つひとつ意味があり、子を悪いものから守る「親の愛」がこめられている。今回の卒業研究ではア

イヌの文様から「伝わる」デザインを学び、想いを形にすることに挑戦した。メインとなる上面の文様には「シク」、「アバポエシリキ」、「モレウ」の三つの文様を構成し、「上から優しく見守っている」という意味になるようデザインした。

漆芸作品（蒔絵・螺鈿）

坂本 杏理

1 元日

2 振替休日

3

4

5

6

7

8

9 成人の日

10

11

12

13

14



女性用セット(左) 男性用セット(右)



横から見た状態



実際に盛り付けた様子

## 新しい漆食器の提案

— これからの2人のために —

現在の漆器産業は衰退しつつあるが、その原因とは何だろうか。職人不足や人々の生活様式の変化など、原因はいくつか考えられる。その中でも、今回は「現在多く見かけられる漆器が、人々の需要と離れている点があるため」と仮定した。人々の需要、つまり、現代が求める漆器とは、日々深刻さを増す高齢化現象をカバーできるようなものではないだろうか。次々と定年を迎え、第2の人生をスタートする熟年層の方々。10～20年後、身体的

な動作に変化が起きた時にも、寄り添うような使い心地で共に過ごしていける漆器があったなら…。ということで、今回の制作を行った。持ったときに手によくなじむ形状と安定感を追求し、試作を重ね、普段使いにも使いやすいよう白漆で塗りをした。また、白漆は時間の経過で色味がどんどん白く変化していくという特徴があるので、ぜひ毎日生活を共にして、時の移り変わりを感じてほしい。

漆芸作品(轆轤・乾漆)

佐藤 沙妃





保管用の箱



帯留め



髪留め



ブローチ

## 冠婚葬祭と漆

私達の日常生活の中に、「冠婚葬祭」といった行事の考え方がある。日本の伝統行事だが、現代人はその意味を正しく理解しているだろうか。「冠」は成人、「婚」は結婚、「葬」は葬儀、「祭」は法事・お盆を意味し、それぞれが独自の風習や形式に沿って行われてきた。しかし、現代社会では様々な要因からこの伝統行事が簡易化・省略化されつつある。改善していく為に、薄らぎつつある伝統行事と伝統工芸である漆を組み合わせ、それぞれの行事で身

につける装身具とそれを保管する箱を制作した。受け継いでいく過程の「永遠性」、「未来への可能性」を表現する為に命の流れを途切れることのない繋がりが表現されている無限大記号をモチーフにし、真鍮と漆を用いそれぞれの行事で使い分ける装身具と保管する箱を制作した。これらの子孫へと受け継ぎ、繋がりの過程が繰り返されれば冠婚葬祭や漆の価値が高まり、「今日は特別な日」であることの象徴になると考える。

金工・漆芸作品(螺鈿・蒔絵)

芳賀 祥子

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11 建国記念日

12

13

14



箸・おもちゃ・マナーブック



親子で遊ぶ様子



おもちゃのお弁当



箸を持った様子

## 子供のための箸トレーニング おもちゃの提案

近年、箸を正しく使えない子供が増加しており、数多くある箸のマナーも知らない人も増加してきている。幼少のうちから正しい箸の持ち方を身に付けておくことが重要だと考えられる。そこで今回、子供でも楽しく練習できる箸のトレーニングおもちゃを提案した。箸の形状は、サポート部を凹凸で形成することで指の置き場や持ち方がわかるように設計し、通常の箸への移行がしやすくなるようにした。おもちゃは、お弁当をモチーフに

することで子供も親しみやすいものになったのではないかと考えた。また、一部はバズルのようにすることで考えながら遊べるようにし、異なる素材を使用することで握り方の感覚に差を持たせることも目指した。さらにマナーブックを付属させることで親子でマナーについても学べるようにした。箸を使い、おもちゃで遊ぶことでトレーニングに対するマイナスなイメージを取り除きながら、子供の手の発達を促すことができた。

玩具

今井 千聖



マスク装着



マルチケースから出した状態

## 持ち歩ける防煙マスク

— 身を守るためのツールとしての選択 —

火災での死亡者数は年間2千人を超えると言われている。その死亡原因として最も多いのが、火災によって発生した煙に含まれる有毒なガスの吸引によるものだ。火災発生時、私たちは有毒ガスから少しでも身を遠ざけることで、避難の確実性をより向上させることができると言えるだろう。よって本研究では火災発生時にどのような対処を行うべきかを調査し、市場にある製品の分析から、有毒ガス吸引のリスクを減らすことができ、持ち歩くこと

できる防煙マスクの提案をした。持ち歩くことでバッグやポケットの中に新たなスペースを必要とすることの無いように、普段必ずといって良いほど持ち歩いている携帯電話や、ちょっとした小物などと一緒に収納できるマルチケースとしても使用できるデザインにした。このようなマスクが防災グッズとして消費者の選択肢の中に含まれていくことが、私たちの防災に対する意識を少しずつ変化していくきっかけになっていくと考える。

防煙マスク

尾形 彩

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14



プロトタイプ水車



稼働実験中の水車



実発電量

## 小水力発電を身近に

2011年3月11日、私たちは未曾有の大震災に見舞われ、大きな被害を受けた。その中で私たちに最も影響を及ぼしたのが「福島第一原子力発電所」の事故である。私たちにはこの事故によりエネルギー問題という課題ができた。このときに注目を浴びたのが自然エネルギーである。私はこのエネルギーの中でも小水力発電に注目し調査したが、この発電方法は設置、普及が難しい課題があるということがわかった。同時にこの発電にしかないメリットが数多く存

在することも分かった。これを活かさないかと思い、私は小水力発電について研究することにした。小水力発電を身近に扱える物になるように、プロトタイプ製作による実発電量の計測とその電力の使い方並びに、景観に適したデザインの提案を目的として本研究を進めていき、発電量の計測を行うためにダイナモ発電機を組み込んだ小型水車ユニットの試運転モデルを製作した。だが、目的を達成できるほどの発電量を得ることはできなかった。

発電機

金田 祥平

15

16

17

18

19

20 春分の日

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31



中身を出した様子



遊びの様子



遊びの様子



収納箱

## 高齢者と孫世代をつなぐ製品

—コミュニケーションツールとなるおもちゃの開発—

近年、高齢化が進んでいる。65歳以上の高齢者のいる世帯において、三世帯世帯は減少傾向にあり核家族世帯や単独世帯は増加傾向にある。また、若者はスマートフォンなどの機器の導入により幼い頃からネットに触れる機会が増え、コミュニケーションを取ることが苦手になっていると言われていた。このことから高齢者と家族(子や孫)のコミュニケーション不足が考えられている。そこで、高齢者と孫との間にコミュニケーションをとる

機会やきっかけを与えられることを目的とした製品の提案に取り組んだ。ブロック遊びを通じてコミュニケーションをとり、その思い出を収納箱に付属している写真立てに飾るという形で提案した。ブロックは数多く制作し、自分たちで遊びを考えることもできるようにした。5つの遊び方とルールをちらし、収納箱、遊ぶための木の土台などを制作した。モニタリングの結果、製品は高齢者と孫世代をつなぐ良いきっかけになったと感じた。

玩具

佐藤 ちひろ

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14



野菜ストッカー上部



常温野菜を入れるスペース



## 家庭における食品ロスを減らすための製品の提案

### — 電気を使わない野菜ストッカー —

「食品ロス」という言葉を聞いたことはあるだろうか。私たちは年間約1,700万トンもの食糧を捨てている。しかしそのうちの約800万トンはまだ食べることができる部分なのだ。食品ロスとはこの食べることのできる部分のことをいう。そしてこの食品ロスの約半分は家庭から出されているのだ。そして家庭から出されている食品ロスの中でもっとも割合が高いのが野菜である。私はこのことに着目して野菜の食品ロスを減らすための製品を

提案することにした。野菜にとってよい環境とはどのようなものか調査・実験を行い、結果から低温・高湿度・低酸素の状態が良いことが分かった。その結果を元に水に野菜を入れて保存することを考えた。実際に製作してさらに実験を行い成果品の検証を行った。その結果、提案した野菜ストッカーは十分に野菜を長持ちさせることができた。今回の研究で直接廃棄による食品ロスに対しての解決案としては有効なものであったと感じる。

### 野菜ストッカー

渡部 春希

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29 昭和の日

30

## 卒業作品集

## DESIGN GRADUATION WORKS 2016

編集 |

北本 雅久 後庵野 かおり 加藤 早織 板橋 芽衣子

発行 |

会津大学短期大学部 産業情報学科 デザイン情報コース

〒965-8570 福島県会津若松市一箕町大字八幡字門田1-1

TEL 0242-37-2300(代) URL <http://www.jc.u-aizu.ac.jp>

2016年3月



JUNIOR COLLEGE OF AIZU